

平成29年度  
事業報告書

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

社会福祉法人 東京福社会

## I 平成 29 年度の経営環境と事業の概況

- 1 平成 29 年、東京都の高齢者人口は 305 万 2 千人となり、対前年比では 3 万 7 千人 (1.2%) の増加となった。高齢化率は 23.3% となり、前年と比べて 0.2 ポイント上昇し、過去最高を更新した。

このうち、65 歳から 74 歳までの人口は 152 万 6 千人で対前年比 1 万 5 千人 (1.0%) の減少となったが、75 歳以上の人口は 152 万 6 千人で、初めて 150 万人を超えた。対前年比では 5 万 3 千人の増加となった。

認知症高齢者や介護も医療も必要な高齢者が増加しており、利用者 1 人ひとりに応じたサービスの専門性や多様性ととともに、地域の医療機関等と連携した支援が求められている。

東京都内の年間死亡者数も増加の傾向にあり、葬祭業者の新規出店がある一方、葬儀の小規模化、簡素化が一段と進み、葬祭事業を取り巻く環境は厳しさを増している。

また、改正社会福祉法が平成 29 年度から全面施行され、新たなルールのもとでの法人運営が求められるとともに、当会は特定社会福祉法人として、独立会計監査人の監査を受けることとなった。

- 2 このような状況のなか、今後も社会福祉法人としての使命と社会的責任を果たしていくため策定した「経営戦略 5 か年計画」の 4 年目にあたる平成 29 年度は、プラスワンサービスの充実、受注祭壇のランクアップや推奨する祭壇を明確にした新葬儀プランによる増収策、特養におけるケアの充実や地域との一層の連携強化等に取り組んだ。

- 3 葬祭部門の事業実績は、施行件数 4,900 件、事業収入 29 億 92 万円となり、前年度に比べ件数で 186 件、金額で 2 億 2,902 万円の増加となった。

事業別の件数をみると、助葬事業は、3,353 件、対前年度比 214 件の増加で、昨年度に続き 3,000 件を超えた。公益事業は 1,547 件となり、前年度を 28 件下回ったものの事業収入は単価増により 1 億 8,792 万 5 千円の増となった。

職員の給与制度については、国家公務員に準拠して扶養手当を見直し、平成 29 年度から実施した。

- 4 高齢福祉部門においては、利用者個々のニーズや心身の状況を踏まえた個別ケア、看取り介護や医療と連携した専門的ケアの充実に努めた。

利用者の虚弱化による入院患者の増加等により、特養利用率は 95.1% であったが、ショートステイの積極的な受け入れ (利用率 109.1%) を行うことで、全体で 96.9% の入所率を確保した。また、積極的に地域の学校や団体等との交流活動を展開した。

- 5 法人全体のサービス活動収益は 41 億 9,910 万 7 千円、当期活動増減差額は 5 億 3,713 万 7 千円となった。

## Ⅱ 主要事業の事業実績

### 1. 葬祭部門

#### (1) 助葬事業

施行件数：3,353件 (目標達成率 102.9%)

事業収入：693,318千円 (目標達成率 103.3%)

都内の助葬に占めるシェア 39.7%

#### 助葬事業取扱状況

(単位：件/千円)

区分	事業計画 (目標)		事業実績		目標達成率	
	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入
平成29年度	3,257	670,942	3,353	693,318	102.9%	103.3%
平成28年度	3,169	652,814	3,139	652,223	99.1%	99.9%
差異	88	18,128	214	41,095		
前年度対比	102.8%	102.8%	106.8%	106.3%		

#### 斎場別内訳

(単位：件/千円)

区分	事業計画 (目標)		事業実績		目標達成率	
	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入
道灌山会館	95	19,570	129	29,866	135.8%	152.6%
江古田斎場	2,593	534,158	2,694	555,624	103.9%	104.0%
ホール多摩国立	569	117,214	530	107,828	93.1%	92.0%
合計	3,257	670,942	3,353	693,318	102.9%	103.3%

#### 助葬事業の主な取組み

##### 助葬事業渉外活動訪問先別件数

区分	福祉事務所	特養 関係団体	病院	警察署	合計
事業計画 (目標)	365	900	442	186	1,893
事業実績	364	944	473	185	1,966
目標達成率	99.7%	104.9%	107.0%	99.5%	103.9%

##### ①福祉事務所等への渉外活動

営業専門スタッフが都内の福祉事務所等を定期的に訪問し、事前相談や生前契約、東京福祉会の強みである納骨堂のPRをしたほか、可能な限り公益事業の案内も行った。

また社会福祉協議会に対しては、葬儀施行だけではなく、事前相談、「終活」をテーマにした無料の葬祭セミナーを開催できることをPRした。（文京区、豊島区、八王子市、三鷹市の社協よりセミナー講師依頼を受けた。）

## ②特別養護老人ホーム等への渉外活動

特別養護老人ホームからの葬儀依頼が年々多くなっているため、既存施設は年2回の訪問を行うとともに、新規開設施設への渉外活動を積極的に行った。また並行して有料老人ホームへの渉外活動も行った。

## ③病院への渉外活動

都内の病院のうち、過去の依頼実績等を精査し252か所、473回の訪問を行った。

社会福祉法人が実施する助葬事業の特徴等を説明し理解を広めることができたほか、公益事業の案内も行った結果、病院紹介の葬儀依頼件数の増加に繋がった。

## ④警察署への渉外活動

警察署からの葬儀依頼が増加していることから、平成29年度も警察署への渉外活動にも積極的に取り組み、延べ185件の訪問を実施し、ご遺体を長期期間お預かりすることが可能な保冷施設の完備、納骨堂等のPRを実施した。

## (2) 公益事業

施行件数：1,547件（目標達成率87.8%）  
 事業収入：2,207,602千円（目標達成率96.1%）  
 1件単価：1,427千円（平成28年度1,282千円）

### 公益事業取扱状況

(単位：件/千円)

区分	事業計画（目標）		事業実績		目標達成率	
	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入
平成29年度	1,762	2,297,030	1,547	2,207,602	87.8%	96.1%
平成28年度	1,744	2,273,360	1,575	2,019,677	90.3%	88.8%
差異	18	23,670	△28	187,925		
前年度対比	101.0%	101.0%	98.2%	109.3%		

### 斎場別内訳

(単位：件/千円)

区分	事業計画（目標）		事業実績		目標達成率	
	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入
道灌山会館	527	596,895	463	576,005	87.9%	96.5%
江古田斎場	1,087	1,574,936	985	1,528,461	90.6%	97.0%
ホール多摩国立	148	125,199	99	103,136	66.9%	82.4%
合計	1,762	2,297,030	1,547	2,207,602	87.8%	96.1%

※1. 道灌山会館の施行件数には、日本歯科大から依頼の献体火葬(直葬)を含む

※2. 江古田斎場の売上高には、単品の生花を含む

斎場別1件単価(飾り葬儀)

(単位：件／千円)

区分	事業計画(目標)			事業実績			目標達成率		
	件数	売上	平均単価	件数	売上	平均単価	件数	売上	平均単価
道灌山会館	384	558,720	1,455	369	548,565	1,487	96.1%	98.2%	102.2%
江古田斎場	907	1,520,132	1,676	846	1,465,980	1,733	93.3%	96.4%	103.4%
ホール多摩国立	108	112,752	1,044	81	91,266	1,127	75.0%	80.9%	107.9%
合計	1,399	2,191,604	1,570	1,296	2,105,811	1,625	92.6%	96.1%	103.5%

## 公益事業の主な取組み

### 1) 全員参加の渉外活動による顧客基盤の拡大

#### ①地域との連携強化による顧客基盤の拡大

社会福祉協議会、直営斎場近隣特養、町会、商店街等の要望に応じて「終活」をテーマにした無料の葬祭セミナーを提供できることを提案した結果16回開催することができ、参加者は331名であった。なお、特別養護老人ホーム等との新規特約契約の締結については3件の実績であった。

今年度で4回目となる道灌山地域感謝祭では過去最高の483名の来場があった。

広報活動については、地域の特性を踏まえ、各斎場で重点地域を絞り込み事前相談、ミニセミナー、施設見学会等、顧客の関心が高い内容を盛り込んだ情報をポスティングで発信したほか、地域の商店街にご協力いただくチラシの配布活動を行った。

#### ②会友Bプラン新規加入者1,000人を目指した取り組み

平成28年度に導入した葬儀の依頼時に加入いただける「会友Bプラン特別加入制度」や「事前相談の強化」を中心に会友加入の促進を図ったほか、盂蘭盆会及び彼岸会に合わせた展示相談会等を実施し会友加入者獲得に努めた。平成29年度は、前年度より245名増加し913名となった。

(平成28年度実績668名)

#### ③各部署が連携したフォローアップの充実

葬儀終了後、お客様の自宅を訪問し直接お話を伺うフォローアップについては業務本部と渉外部が連携して、82件実施した。

また、納骨先未定者にはアフターコール(葬儀終了後に電話)を実施し49日の確認、法事、納骨堂の案内を行った。

#### ④特約病院の獲得率増加

病院業務従事者によるミーティングを毎月開催し、獲得事例等の共有を図ったほか、法人案内、料金表等を病院の霊安室に置き、お客様が当会を認知する機会を増やした結果、平成29年度の獲得率は33.5%で前年度対比5.0%

増加した。

#### ⑤広報媒体の充実

ホームページについては、迅速でわかりやすい情報提供を心がけ、施設見学会や「わの会」等の情報提供を行ったほか、その人らしさを大切に「ご葬儀エピソード」の更新を行った。（平成 29 年度：8 件掲載）

また機関紙「響」については、5 月「介護・老い」、9 月「葬儀（死）」、1 月「生きがい」をテーマに発刊し、葬祭関連だけでなく高齢福祉全般に関する情報を充実し、高齢期の生き方を支える事業を行う当会の役割を発信することができた。発行後には、関係団体訪問時に持参し当会の PR を行った。

#### ⑥CSR（組織体の社会的責任）の取り組み

グリーンワークの一環として、カウンセラーのお話を交えながら遺族同士が自由に語り合える場「わの会（『和の時』『話の時』）」を計 12 回実施し延べ 292 名の参加者があった。

また、道灌山会館、江古田斎場においては、近隣清掃活動を実施したほか、ホール多摩国立では地域の古紙回収活動を行うとともに、地元町会の行う小学校登校時の見守り活動に参加した。

### 2) 葬儀のクオリティの向上

#### ①新葬儀プランによるサービスの充実

平成 29 年 2 月に導入した新葬儀プランでは祭壇のデザインや名称を一新するとともに、オリジナル会葬礼状等をセットに取り入れて「その人らしさを演出する」ための商品構成を実現した。これにより、当会が推奨する祭壇が明確になり、職員が自信を持って販売できるようになり、顧客満足と収益向上の両立を図ることができた。（推奨祭壇 9.6%増）

（オリジナル会葬礼状受注実績：平成 28 年度 100 件→平成 29 年度 305 件）

#### ②プラスワンサービスの提供

打ち合わせの際、ご遺族から故人の趣味や好物等を伺うだけではなく、きめやかな観察と傾聴により、より深い思いへの「気づき」に重点を置いてプラスワンサービスの質の向上を図り「その人らしい葬儀プラン」の実現に努めた。

また、優れた事例を「ご葬儀エピソード」としてホームページに掲載した。

○目標：飾り葬儀件数の 44% 実施件数：570 件（飾り件数の 44%）

#### ③葬儀情報の共有化によるサービスの充実

基幹業務システムの葬儀終了報告書を活用し、祭壇セットの受注経緯、ヒヤリハット、プラスワンサービスや寺院作法の情報の共有等を迅速かつ効率的に行ったほか、お客様アンケートを使用し事例研究会において検証を行い、職員のスキルの向上とサービスの改善に努めた。また各斎場においてチーム

ごとにミーティングを実施し、祭壇のワンランクアップやオプション品の受注獲得話法等を共有することにより、オプション品の受注件数の増加、顧客満足による祭壇等のワンランクアップなど一定の成果を上げた。

(祭壇等のワンランクアップ実績:平成 28 年度 68 件→平成 29 年度 338 件)

#### ④目標管理の強化

平成 29 年度も、個別目標管理に加えチーム制の目標管理を行い、各リーダーが中心となり定期的にミーティング等を実施し個々の力量の底上げに取り組み平成 28 年度の実績を上回る成果を挙げることができたが、まだ職員間にばらつきがあるため改善に向けた取り組みを一層強化していく。

#### ⑤斎場整備及び設備の充実

道灌山会館において「その人らしい葬儀を演出する」ためプロジェクターの更新を行ったほか、江古田斎場では、清潔で安心・安全な施設提供を行うため、お客様用トイレ、3 階会食室の壁紙、給湯器等のリニューアルを行った。ホール多摩国立では、ご遺体安置棚を新設し安置設備の充実を図った。

#### ⑥ご遺体の処置（エンゼルケア・移乗等）の実施と研修

助葬事業を含むすべてのご遺体について、故人の尊厳を保つエンゼルケアを実施している。このうち、職員ができる処置の範囲を広げるため、専門業者によるエンゼルケア研修を各斎場とも 2 回実施した。また、移乗研修については、高齢福祉部門の職員に講師を依頼し 10 名の職員が受講した。

### (3) 霊園事業

#### 霊園事業 事業収入の状況

(単位:千円)

区分	事業計画(目標)	事業実績	目標達成率
平成29年度	126,151	125,058	99.1%
平成28年度	122,477	132,752	108.4%
差異	3,674	Δ 7,695	
前年度対比	103.0%	94.2%	

平成 29 年度霊園事業の事業実績は、前年度と比して 7,695 千円の減となった。これは主に、遺留金による供養料約 8,000 千円の減が要因である。

## 2. 高齢福祉部門

### 特別養護老人ホームの利用実績

区分	特養	ショートステイ	特養 + ショートステイ	一般 デイサービス	認知症 デイサービス	一般+認知症 デイサービス	居宅介護支援	
練馬高松園	事業計画(目標)	96.6%	108.1%	98.2%	94.0%	70.0%	87.1%	70件(月)
	平成29年度	95.2%	104.8%	96.3%	79.8%	64.9%	75.0%	68.8件
	平成28年度	95.8%	118.2%	98.5%	86.0%	64.2%	79.7%	68.3件
	前年度対比	99.4%	88.7%	97.8%	92.8%	101.1%	94.1%	100.7%
第2練馬高松園	事業計画(目標)	96.6%	108.1%	98.2%				
	平成29年度	94.9%	114.7%	97.6%				
	平成28年度	93.0%	118.8%	96.6%				
	前年度対比	102.0%	96.5%	101.0%				

#### (1) 個別ケアの更なる充実

利用者本人や家族参加のもとで個別ケアカンファレンスを行ない、個別ニーズの把握や相互理解の促進に努めた。また個々の要望に応じて、ふれあいツアー、誕生会、買物会、映画会等を実施し、生活の充実や機能の維持に取り組んだ。

また集団リハビリのほか、小集団や個別のリハビリにも取り組み、利用者の状態に応じた運動機能の維持を図った。

#### (2) 専門的ケアの充実

認知症高齢者のケアを一層充実するため、多職種で情報共有を密に行い周辺症状の要因・対処方法を話し合い、ケアの充実、生活環境の整備に努め、利用者に寄り添った対応を行った。さらに職員の認知症ケア専門士資格取得を推奨し、平成29年度末の資格者は15名となった。

また、看取り介護においては、利用者の意思や家族の意向を尊重し、嘱託医・協力病院との連携を密に実施するとともに、職員に対し、「看取り介護研修」を実施し、看取りにおける対応力の向上に取り組んだ。(看取り介護実施件数：練馬高松園14名・第2練馬高松園3名)

#### (3) 施設の安心・安全な運営

介護中の事故ゼロを目指し、事故防止委員会を定期的で開催した。事故の発生原因等の分析、対応策の検証、職員への周知徹底により、介護中の事故を前年度より大きく減少させた。また、適宜、感染症・食中毒の研修を実施し職員の意識向上に努めた。

防災訓練を毎月実施するとともに、消防署から指定を受けた「地域モデル防災訓練」として、11月に3者防災訓練(両園・町会)を行った。

#### (4) 人材育成の強化

講師の役割を担う職員の育成も兼ね、内部研修(介護業務、感染症対策、事故



防止、看取り、新任育成等)の充実を図った。専門的な内容については、外部研修(認知症ケア、医療的ケア、キャリアアップ等)を活用し、資質向上を図った。また、サービス向上の意識改革のため、外部機関による両園合同の接遇研修を実施し78名が受講した。

介護職員初任者研修を9月に開講し、18名の受講者に対して研修を実施した。(修了者3名を当法人の介護職として採用)

また、新卒者の福祉人材確保に向け、計画的に介護職養成学校訪問を行った。平成29年度は18校訪問し、1名採用することができた。

#### (5) 施設の一体的運営の促進

平成29年度より両園の給食契約の一本化を実施した。これにより、両園の主な契約について一本化が完了した。また、両園の職員交流の円滑化に向け、第2練馬高松園の夜勤形態を平成30年4月より16時間夜勤に変更するための準備に取り組んだ。

#### (6) 地域貢献と地域社会との交流の推進

地域住民との相互交流のため、「まつぼっくりサロン(イベント、喫茶)」を毎月1回計画的に実施し、年間1,013名の参加があった。施設内会議室の地域開放も練馬区内22団体の登録があり、利用回数も延べ198回となった。

地域ボランティア活動として、行事等の定期的な活動(書道、音楽、演芸、フラワーアレンジメント、アロマハンドトリートメント等)を中心に、延べ1,057人の協力を得たほか、納涼祭では小学生等20名、デイサービスでは中学生10名のボランティアを受け入れる等、異世代間交流の推進にも努めた。

また、近隣小学校からの依頼により、当会職員が福祉授業「高齢者とのコミュニケーション」の講師を務めた。

#### (7) 特別養護老人ホーム等の新設に向けた検討

平成29年11月、練馬区による「特別養護老人ホーム整備マッチング事業」に応募したところ、練馬高松園から徒歩5分と至近にある民有地について、第一順位の交渉事業者として選定され、平成30年3月に地権者との面談を開始した。

### 3. 自立支援事業の実施

東京都、特別区、自立支援センター等と連携し、路上生活者の地域生活のための住宅を借り上げ、管理する事業を行った。

また、東京都の意向に基づき平成28年度末より住宅の借上げを60戸とした。

#### 借上げ住宅 利用状況

平成30年3月末現在

項目	台東寮 (有隣協会)	足立寮 (新栄会)	合計
借上げ戸数	30戸	30戸	60戸
在所者数	19名	22名	41名
平均在所日数	67日	53日	60日
平均年齢	48歳	49歳	49歳
無断退所数	4名	1名	5名

## 4. 組織・経営基盤の強化

### (1) 改正社会福祉法全面施行への対応

改正社会福祉法に基づき、平成 29 年 6 月 9 日の理事会で新理事候補者、新監事候補者の選任を行った。また、定款施行細則及び内部管理方針の制定及び社会福祉充実計画の承認を得た。平成 29 年 6 月 26 日の新評議員会では、役員等報酬、賞与、功労金及び旅費に関する規程の制定、新理事、新監事、会計監査人の選任、社会福祉充実計画の承認を得た。また同日に開催された新理事会において理事長、専務理事、常務理事が選任された。

なお、会計監査人の導入にあたり、予備調査で指摘のあった内部統制の整備にかかわる関係諸規程等の整備に向け、規程（案）等を作成し、平成 29 年度第 3 回及び第 4 回理事会において 16 項目の規程等について承認を得た。

### (2) 経営戦略 5 か年計画事業の進行管理について

事業計画 21 事業のうち 17 事業が検討を終え通常業務として実施されている。

また、総務経理部が本部機能を発揮して、各事業所への助言、法人全体を通じた企画・進行管理を行った。

### (3) 人材育成の充実について

平成 29 年度葬祭部門の職員研修計画に基づき、各職層に対する研修を実施した。前年度に大手百貨店と同様の「接客サービスマナー」、「営業カススキル取得」研修を実施したが、今年度は、そのノウハウを取り入れ写真やイラストでわかりやすく示した当会独自の接客サービスマナーマニュアルと、心をこめた接客のための「お客様への約束 7 か条」の標語を作成し、職員自らが講師を務めて研修を実施した。

業績評価については、目標管理シートの改定を行い、事業計画への更なる参加意識向上、自身への役割を明確化するものとした。さらに職員のモラルを高め、経営の一層の効率化を図るため、能力・実績に基づいた人事管理の強化策として自己降任制度を制定した。

### (4) ITに関する組織体制の構築について

情報システム運用ルールを体系的に確立するため、「情報セキュリティ基本方針及び対策基準（案）」を作成し第 3 回理事会において承認を得たほか、それに則した「情報システムセキュリティ要綱」を定めた。

また、サーバー及びパソコンの入替、これに伴うシステムの改修についても完了したほか、社内決裁システムの一元化を目的として、高齢福祉部門に葬祭部門同様の決裁システムを 5 月に導入し運用を開始した。

### (5) 3 つのゼロ運動の推進

葬祭部門では、クレームゼロの取り組みとして事例研究会及び重大事故防止委員会において、ヒヤリハット事例の原因と再発防止策を検討し、斎場毎にマニユ

アルにまとめ新しいルールの制定を行った。

高齢福祉部門においては、介護中の事故ゼロを目指し、日々、事故・ヒヤリハット事例を所内ネットワークに掲載し、迅速な注意喚起を図った。また、事故防止委員会が中心となって、事故事例と対応策、再発防止策に取り組むとともに、身体拘束ゼロを徹底するための勉強会、誤薬対応研修などを企画、実施している。苦情については、第三者委員による相談窓口を設置しているが、発生件数は0件であった。

自動車事故については「安全運転」標語を導入し、始業時に唱和するほか、各事業所に無事故記録表を設置し意識の向上を図るとともに、事故報告書を各部署のミーティング等で情報共有を行った結果、事故件数は12件となり前年と比較し6件の減少となった。また平成29年度より、前年度に事故を起こした職員に警視庁交通安全教育センターの運転講習を受講させるようにした。

#### (6) 防災対策の強化について

事業継続計画（BCP）の周知を図るため、新規採用職員を対象にBCP研修を実施した（在職職員は実施済み）。備蓄期限をむかえる非常用食料等の入替を実施した。

平成29年度も地域の町会と連携した合同防災訓練を実施し、連携強化と協力体制の構築に努めた。

#### (7) 経費削減の徹底について

葬祭部門においては、公営斎場の利用促進を図り火葬料金約1,225万円の経費を削減した。

高齢福祉部門においては個々の利用者の状態にあった介護用品の効率的利用に努めた。

更に、各事業所において事務用消耗品、光熱費の削減に努めた。事務用消耗品については、前年対比約50万円の経費削減となったが、光熱費については、電気料金値上げの影響もあり、使用料金は前年対比約280万円の増となった。引き続き経費削減に努めていく。

## 5. 法人全体の財務状況

平成29年度における事業活動増減の状況は、サービス活動収益は4,199,107千円で、前年度に比して222,454千円の増となった。サービス活動費用は3,638,202千円で、前年度に比して74,565千円の増となった。その結果サービス活動増減差額は560,905千円となり、前年度に比して147,889千円の増となった。

なお、経常増減差額は567,278千円となり前年度に比して149,588千円の増となっている。

また、当期活動増減差額は537,137千円で前年度に比して120,367千円の増となっている。

表1 事業別 事業活動増減の状況(平成29年4月1日～平成30年3月31日) (単位：千円)

項目	平成29年度								平成28年度 法人合計 B	増減 A-B
	法人合計 A	本部	葬祭事業	自立支援 事業	練馬高松園	第2練馬 高松園	聖恩山霊園			
活動サービス 増減	収益	4,199,107	0	2,947,781	60,829	654,176	411,417	125,058	3,976,653	222,454
	費用	3,638,202	56,092	2,392,521	60,828	643,722	408,499	76,696	3,563,637	74,565
	増減差額①	560,905	△56,092	555,260	1	10,455	2,917	48,362	413,016	147,889
活動外サービス 増減	収益	17,142	205	8,414	0	4,726	3,674	123	16,033	1,109
	費用	10,769	0	0	0	3,477	7,291	0	11,359	△590
	増減差額②	6,374	205	8,414	0	1,249	△3,618	123	4,674	1,700
経常増減差額③(①+②)		567,278	△55,887	563,674	1	11,704	△700	48,485	417,690	149,588
特別増減	収益	244,243	181,989	39,354	1	10,025	12,874	0	255,901	△11,658
	費用	204,993	9,102	182,281	0	9,975	3,636	0	241,228	△36,234
	増減差額④	39,249	172,887	△142,927	1	50	9,238	0	14,673	24,577
法人税、住民税及び事業税⑤		79,044	0	79,044	0	0	0	0	43,408	35,637
法人税等調整額⑥		△9,654	0	△9,654	0	0	0	0	△27,815	18,161
当期活動増減差額⑦ (③+④-⑤-⑥)		537,137	117,000	351,357	2	11,754	8,537	48,485	416,770	120,367

表2 事業別 資金収支の状況(平成29年4月1日～平成30年3月31日) (単位：千円)

項目	平成29年度 決算								平成29年度 予算 事業合計 B	差異 B-A
	事業合計 A	本部	葬祭事業	自立支援 事業	練馬高松園	第2練馬 高松園	聖恩山霊園			
事業活動 収支	収入	4,215,097	205	2,956,195	60,829	658,903	415,090	124,030	4,321,042	105,946
	支出	3,560,172	64,192	2,356,295	60,788	625,353	387,765	65,934	3,631,345	71,173
	収支差額①	654,925	△63,987	599,901	40	33,550	27,325	58,096	689,698	34,773
施設整備 等収支	収入	13,268	0	18	0	9,650	3,600	0	15,950	2,682
	支出	140,451	0	41,026	0	59,390	40,035	0	161,442	20,991
	収支差額②	△127,183	0	△41,008	0	△49,740	△36,435	0	△145,492	△18,309
活動その他 収支	収入	289,222	193,089	51,789	2,492	26,051	9,250	6,550	310,882	21,660
	支出	454,866	129,102	315,527	2,491	280	36	7,430	507,068	52,202
	収支差額③	△165,645	63,987	△263,738	1	25,771	9,214	△880	△196,186	△30,542

表1、表2注

注1. 千円未満四捨五入のため合計等が一致しない場合がある。

注2. 法人合計の一部項目において内部取引消去をしているため、各拠点を合計しても一致しない場合がある。

注3. 財務報告書における法人単位については内部取引消去をしている。